DERWENT-ACC-NO:

1978-66118A

DERWENT-WEEK:

200392

COPYRIGHT 2007 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE:

Chemical polishing of iron and steel - using stable soln. comprising hydrogen peroxide, acid ammonium

fluoride and conc. sulphuric acid

PATENT-ASSIGNEE: MURATA S[MURAI]

PRIORITY-DATA: 1977JP-0006180 (January 12, 1977)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO

PUB-DATE

LANGUAGE

PAGES

MAIN-IPC

JP 53091019 A

August 10, 1978

N/A .

000

N/A

INT-CL (IPC): C09K013/08, C23F003/04

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 53091019A

BASIC-ABSTRACT:

The chemical polishing soln. comprises hydrogen peroxide soln. (35%) of 100-200 q/l, acid ammonium fluoride of 15-50 g/l and conc. sulphuric acid of 2-8cc/l.

The polishing solution has a long life i.e. decomposition of hydrogen peroxide is inhibited. In an example a polishing soln. comprising H2O2 (35%) of 150g/l, acid ammonium fluoride of 40g/l and conc. sulphuric acid of 7cc/l was prepd. A mild steel plate was dipped in the soln. for 10 seconds at 20 degrees C. The steel plate had lustrous surface finish.

TITLE-TERMS: CHEMICAL POLISH IRON STEEL STABILISED SOLUTION COMPRISE HYDROGEN PEROXIDE ACID AMMONIUM FLUORIDE CONCENTRATE SULPHURIC ACID

DERWENT-CLASS: E35 E36 M12

CPI-CODES: E31-E; E31-F05; E32-A; M14-B;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M3 *01*

Fragmentation Code

C800 C730 C101 C408 C802 C807 C805 C804 C801 C550

Q461 Q462 M782 R023 R024 M411 M902

Chemical Indexing M3 *02*

Fragmentation Code

C730 C100 C806 C807 C804 C801 C500 C009 Q461 Q462

M782 R023 R024 M411 M902

Chemical Indexing M3 *03*

Fragmentation Code

C800 C730 C101 C108 C316 C802 C805 C804 C801 C540

19日本国特許庁

公開特許公報

① 特許出願公開

昭53—91019

⑤ Int. Cl.²C 09 K 13/08C 23 F 3/04

識別記号

庁内整理番号 6735—42 砂公開 昭和53年(1978) 8月10日

発明の数 1 審査請求 有

(全 2 頁)

函鉄および鋼の化学研磨法

②特

願 昭52-6180

29出

願 昭52(1977)1月22日

⑩発 明 者 村田俊一

高崎市八幡町18の3

⑪出 願 人 村田俊一

髙崎市八幡町18の3

1 発明の名称

鉄および鍋の化学研磨法

2. 特許請求の範囲

過酸化水素水、酸性フッ化アンモニュム、シ よび硫酸を含む水溶液で、鉄シよび鋼を処理 することを特徴とする鉄シよび鋼の化学研磨 法。

3.発明の詳細な説明。

本発明は、過酸化水素水、酸性フッ化アンモニュム、および硫酸を含有する水溶液で、鉄 および鍋を化学研磨する方法である。

従来より過酸化水素、フッ化物、その他が 含有している水溶液による化学研磨法が知ら れているが(昭48-29455)上記の知 理液は本発明に比較し高価であること、又連 続して化研を行なりとPHが高くなり過酸化 水素の分解を促進したり、まだ充分なる有効 成分があるにもかかわらず化研能力不足とな り破棄しなければならないことが多かつた。 本発明は、このような欠点を改良する為に、 過酸化水素水(35%)100~200億~/ℓ、 酸性フッ化アンモニウム15g~50g/ℓ、 最碳酸 4000~ 1000 / ℓ、 それに化研時のミスズル ト防止とムラのない光沢を得る為に非イオン系 の外面活性剤を微量添加した化研液を作る事に 成功した。この方法によると従来に比較し化研 液が安した。この方法によると従来に比較し化研 液が安した。この方法によると従来に比較し化研 液が安するえ、有効成分の有効消費による寿命の 延長等により、化研作業のコスト低波を可能と した。

例 1

過酸化水素水(35 €) 15 0 g / ℓ 酸性フッ化アンモニュム 4 0 g / ℓ マ^{CC} / 0

以配組成の水溶液に収鋼、および収鋼に浸炭したものを 2 0° Cで 1 0 秒浸度したら光沢ある 装面が得られた。又健康を添加したものはしないものに比較し、研磨能力は約 1 0 5 内外、大であつた。

非イオン系界面活性剤

上記組成の水溶液にSCM21を浸炭焼入れし たものを20°Cで2分表度したち、下記のよ うな光沢ある表面を得た。

表面租度

化研前 15ミクロン

又、硫酸を添加したものはしないものに比較し 10 が以上研磨能力が、大であつた。